



神戸市立医療センター 中央市民病院

Kobe City Medical Center General Hospital

90年の 歩み



地方独立行政法人神戸市民病院機構

〒650-0047 神戸市中央区港島南町2丁目1-11
市民病院前ビル3階

大正 昭和

地方独立行政法人神戸市民病院機構
神戸市立医療センター
中央市民病院

90年の
歩み

設立

- 大正13年 3月 市立神戸診療所(長田区三番町)及び神楽分院開院
- 大正13年 4月 大日分院開院(本院病床数:25床 本院診療科数:6)
- 昭和 3年 4月 市立神戸診療所、大日分院、神楽分院をそれぞれ市立神戸市民病院、東分院、西分院と改称
- 昭和16年 1月 東西両分院をそれぞれ付属東診療所、付属西診療所と改称
- 昭和19年 3月 東西診療所を廃止
- 昭和25年 12月 市立神戸市民病院を神戸市立中央市民病院と改称

加納町へ

- 昭和28年 10月 生田区加納町に本院を新築移転、従来の病院は長田分院となる(本院病床数:50床 本院診療科数:9)
- 昭和36年 5月 市立医療センター設置に伴い、伝染病院を中央市民病院併設隔離病舎に改組(一般病床数:475床 伝染病床数:166床)
- 昭和40年 11月 救急病院として告示
- 昭和42年 1月 病院管理センター中央市民病院と改称
- 昭和43年 7月 臨床研修指定病院となる
- 昭和47年 9月 東灘市民病院、中央市民病院付属東灘診療所に改修(入院部門廃止)
- 昭和48年 4月 老成人病床(48床)転用、ICU・CCU設置
- 昭和48年 7月 休日・夜間救急体制開始
- 昭和50年 4月 東灘診療所改築工事完成、新診療所へ移転
- 昭和51年 11月 救命救急センターに指定

ポートアイランドへ

- 昭和56年 3月 中央区港島中町に本院を新築移転(病床数:1000床【一般病床962床・伝染病床38床】診療科数:20)
- 昭和59年 4月 中央市民病院と改称

阪神・淡路大震災

- 平成 7年 1月 阪神・淡路大震災
- 平成 8年 1月 エイズ拠点病院に指定
- 平成 8年 10月 災害拠点病院に指定
- 平成 9年 4月 地域医療部発足、臨床歯科研修指定病院となる
- 平成 9年 12月 中央市民病院付属東灘診療所廃止
- 平成11年 4月 病床数:972床【一般病床962床・感染症病床10床】
- 平成15年 4月 病床数:912床【一般病床902床・感染症病床10床】
- 平成16年 1月 (財)日本医療機能評価機構の病院機能評価取得
- 平成16年 6月 医薬分業実施

新潟県中越地震

- 平成16年 10月 新潟県中越地震
- 平成17年 3月 (財)日本医療機能評価機構の救急医療機能を取得
- 平成19年 1月 地域がん診療連携拠点病院に指定
- 平成19年 4月 神戸市立医療センター中央市民病院と改称
- 平成21年 1月 (財)日本医療機能評価機構の施設認定を更新
- 平成21年 4月 地方独立行政法人神戸市民病院機構へ移行

新型インフルエンザ

- 平成21年 5月 新型インフルエンザ発熱外来設置
国内初の発症が確認された新型インフルエンザ患者の受け入れ
- 平成21年 12月 地域医療支援病院に名称承認
- 平成22年 3月 (財)日本医療機能評価機構の救急医療機能を更新

東日本大震災

- 平成23年 3月 東日本大震災

ポートアイランド2期へ

- 平成23年 7月 中央区港島南町に新築移転(病床数:700床【一般病床690床・感染症病床10床】診療科数:32)
- 平成25年 4月 総合周産期母子医療センターに指定
- 平成26年 1月 (財)日本医療機能評価機構の施設認定を更新

大正 昭和

神戸市

神戸市を中心とした
時代背景

90年の
歩み

- 大正 13年 神戸タワー開業(湊川公園)
昭和 3年 神戸有馬電気鉄道の湊川駅・有馬駅間開通
昭和 7年 六甲越摩耶鉄道六甲ケーブル線開通
昭和 8年 第1回みなとの祭開催
昭和 13年 阪神大水害
昭和 20年 神戸大空襲
昭和 25年 日本貿易産業博覧会(神戸博)開催
昭和 26年 市立王子動物園開園
(諏訪山動物園が王子公園に移される)
昭和 29年 合併前の町立診療所を廃止統合して市立東灘病院として発足
東灘区魚崎出張所を病院に改修(病床52床)
昭和 32年 神戸市役所が湊川から現在地(加納町)に移転
市立中央市民病院長田分院を市立長田市民病院と改称
昭和 38年 神戸ポートタワー完成
昭和 41年 阪神高速道路(京橋・柳原間)開通
昭和 42年 神戸開港100年祭、六甲山トンネル開通
昭和 43年 神戸高速鉄道開通
昭和 44年 神戸商工貿易センタービル完成
昭和 45年 市立長田市民病院を廃止し、現在地(一番町)に市立西市民病院開院
県立こども病院開院
昭和 47年 山陽新幹線(新大阪・岡山間)開通、新神戸駅開業
昭和 48年 神戸文化ホール開館
昭和 51年 新神戸トンネル開通
昭和 56年 ポートライナー開通
神戸ポートアイランド博覧会(ポートピア'81)開催
昭和 57年 神戸市立博物館開館
昭和 60年 ユニバーシアード神戸大会開催
昭和 62年 市営地下鉄(山手線)全線開通
昭和 63年 神戸リハビリテーション病院開院
平成 元年 神戸市制100周年記念式典
平成 2年 六甲ライナー開通
平成 4年 小磯記念美術館開館
平成 6年 西神戸医療センター開院
平成 7年 阪神・淡路大震災
市立西市民病院、阪神・淡路大震災により本館全壊
市立西市民病院、長田区総合庁舎を仮設診療所として診療再開
平成 10年 明石海峡大橋完成
平成 12年 市立西市民病院全館開院
平成 13年 市営地下鉄海岸線開通
平成 14年 御崎公園球技場でサッカーFIFAワールドカップ開催
平成 15年 先端医療センター病院開院
平成 16年 新潟県中越地震
平成 17年 国連防災世界会議開催
平成 18年 神戸空港開港
平成 20年 世界観光機関大都市観光国際会議・G8環境相会合開催
ユネスコのデザイン・都市にアジアで初認定
平成 21年 国内で初めてとなる新型インフルエンザの3例を神戸市から報告
鉄人28号実物大モニュメント完成
平成 22年 次世代スーパーコンピュータ「京」運用開始
神戸こども初期急病センター開設
平成 23年 東日本大震災
第1回神戸マラソン開催
平成 24年 神戸マリナーズ厚生会ポートアイランド病院開院
平成 25年 神戸低侵襲がん医療センター開院
西記念ポートアイランドリハビリテーション病院開院
チャイルドケモハウス開設

平成

昭和
56年

ポートアイランドへ



加納町からポートアイランドへの新築移転



患者移送実施メンバーが集まり、打ち合わせをする



患者移送には自衛隊も動員された



到着した患者は、担架で車両からベッドへ移される



ポートアイランドへの新築移転のために動員された救急車

平成
7年

阪神・淡路大震災



地盤沈下(救急前)



3階 検査室



5階 庶務課



救急外来において



職員・ボランティアによる給水された水の運搬



地盤沈下(駐車場)



液状化による売店水没



5階部分が押しつぶされるように崩れた西市民病院本館

平成
16年

新潟県中越地震



中央市民病院チーム



被災地(新潟県)へ神戸市職員を派遣



小千谷市の避難所



ボランティアの活動



小千谷市の避難所で
救護活動にあたる
西市民病院の医療チーム

平成
21年

新型インフルエンザ



新型インフルエンザ対策会議



新型インフルエンザ説明会



舛添大臣視察



新型インフルエンザ対策室

平成21年5月に国内初の発症が確認された
新型インフルエンザ患者の受け入れ



守衛が人の出入りを管理



受け入れ準備をする病棟
個人防護具着用



発熱外来

平成23年

東日本大震災



伊丹空港より花巻空港に出動した
当院DMATチーム



宮城県南三陸町
志津川高校救護所に
医療支援
(14班、延280名派遣)

平成23年

ポートアイランド2期へ



新生児の移送



患者移送用救急車
民間救急車16台

消防救急車2台
マイクロバス2台

移送患者数
205人

従事者

- 病院職員 1,480人
- 神戸市消防局 20人
- 日本通運 218人
- 水上警察署 他

基本理念

神戸市立医療センター中央市民病院は、神戸市の基幹病院として、市民の生命と健康を守るため、患者中心の質の高い医療を安全に提供する。

基本方針

- 1 患者の生命の尊厳と人権を尊重する
- 2 十分な説明に基づき、満足と信頼が得られる医療を安全に提供する
- 3 基幹病院としての機能を果たすため、高度・先端医療に取り組む
- 4 24時間体制での救急医療を実践する
- 5 医療水準の向上を目指し、職員の研修・教育・研究の充実を図る
- 6 地域の医療・保健・福祉機関との相互連携を進める

コンセプト

中央市民病院は市全域の基幹病院として、他の医療機関との連携の下、救急医療体制の一層の充実を図り「断らない救急」を実践するとともに、より高度で専門的な医療を提供する。



歴代病院長



初代院長
吉村 良一



二代院長
緒方 英俊



三代院長
中村 正雄



四代院長
五十嵐 久雄



五代院長
寺田 軍二



六代院長
松田 一夫



七代院長
大屋 拳吾



八代院長
浅野 定



九代院長
岡本 道雄



十代院長
小松 隆



十一代院長
井村 裕夫



十二代 院長
(現理事長)
菊池 晴彦



十三代 院長(現)
北 徹

市立医療センター中央市民病院は、本年で90周年を迎えました。平成21年度には、一層の患者サービスの向上と経営の効率化を図るため、市立医療センター西市民病院とともに、地方独立行政法人へ移行し、以降も市民病院としての役割を果たすと同時に、経営改善にも努めてまいりました。

今後とも、引き続き、市民・患者へ質の高い医療を安全に提供し、市民の生命と健康を守るという役割を果たしていけるよう取り組んでまいります。

当院は今年90周年を迎える記念すべき年になりました。これまで神戸市の基幹病院として神戸市民の最後の砦としての役割を果たしてまいりましたが、平成23年7月には新病院へ移転し、医療機能の更なる充実や患者サービスの向上に努めています。

これからも地域医療機関との連携や役割分担のもと、救急医療・高度医療を重点に担い、24時間365日市民の生命と健康を守る市民病院として日々努力してまいります。



地方独立行政法人神戸市民病院機構

神戸市立医療センター中央市民病院

〒650-0047 神戸市中央区港島南町2丁目1-1

Tel.078(302)4321 Fax.078(302)7537

<http://chuo.kcho.jp/>